

社会福祉と環境との融和を目指して

～社会福祉の環境への貢献～

恩賜財団済生会理事長

(財)地球・人間環境フォーラム理事長

富山国際大学客員教授

炭谷 茂

1 環境の危機と社会福祉の取り組みの現状

(1) 近年の地球温暖化の進行によって海面の上昇、災害の多発、穀物の不作、熱帯性の疾病の拡大等が地球規模で生じている。大量生産、大量消費、大量廃棄による資源の浪費は、地球資源の枯渇も遠い未来の問題ではない。メダカやウナギの絶滅の恐れが指摘されているように生物多様性の危機にも直面している。

(2) 環境の危機に対しては行政、企業、団体、住民などあらゆる層の取り組みが絶対に必要になっている。社会福祉関係者も例外でない。今日では社会福祉サービスの利用者、従事者は、多数に及び、地域社会への影響力は、非常に大きい。

(3) しかし、社会福祉に関係する人たちの関心は、現在のところ全般的に薄いのが実情である。今後地域社会の一員として関心を持って、積極的な対応が期待される。

2 福祉と環境は、関係が余り考察されていないが、実際のところ大変深い。

(1) まず、環境と福祉の間での影響を考察すると

① 環境が福祉に影響

例えば、自然との触れ合いの欠如から児童の心の成長に影響、高齢者施設での園芸療法の実施

② 福祉が環境に影響

例えば、高齢者、障害者等によるコミュニティガーデンづくり

③ 環境と福祉が相互に影響

例えば、途上国での貧困と環境悪化の悪循環

(2) 次に、環境と福祉の融合するケースを考察すると

① 環境と福祉の両者の向上に資する商品

例えば、ユニバーサル・エコデザインの商品

② 環境・福祉のまちづくり

例えば、コンパクトシティの建設

③ 環境福祉国家の建設

20世紀の福祉国家は、環境破壊を招いた。21世紀は環境と福祉が両立する国家を築いていかなければならない。

(3) これらの領域では、環境と福祉が対等の関係に立って、相互に良い影響を与えたり、場合によっては悪影響を与えることもある。

3 具体的に社会福祉施設でどんな取り組みが考えられるだろうか。

(1) 施設の管理運営面では、光熱水費は、他の業種に比べて高い、3Rの取り組みは不十分などの問題が指摘される。太陽光発電の導入等の取り組みを促進することは、経営コストの節減に役立つともに、環境向上に寄与できる。

(2) ケアの向上に環境を活用することができる。保育での自然との触れ合い、高齢者への園芸療法や温泉療法などがある。

(3) 障害者の就労として環境の仕事が有益である。例えば、古本販売、中古自転車販売等のリユース、食品廃棄物、廃棄家電等のリサイクル、有機農法、林業、駆除された有害鳥獣の活用などがある。

(4) このように社会福祉施設の現場では環境との関係に着目すると多大な効果を得ることができる。

4 このほか地域福祉、福祉政策などでも同様に環境との関係を考察し、具体的取組を行うことは、大変有益である。更なる研究と実践が期待される。